

**原子カシステム研究開発事業
事後評価総合所見**

<p>研究課題名：革新型原子炉開発のための核データ整備基盤の構築 研究代表者（研究機関名）：堀 順一（京都大学） 再委託先研究責任者（研究機関名）：岩本 修（日本原子力研究開発機構） 再委託先研究責任者（研究機関名）：片渕 竜也（東京工業大学） 再委託先研究責任者（研究機関名）：佐野 忠史（近畿大学） 研究期間及び研究費：令和3年度～令和5年度（3年計画） 54百万円</p>	
項 目	要 約
1. 研究の概要	<p>革新型原子炉の研究開発を短いタイムスパンで効果的・効率的に進めていくために、革新型原子炉開発において核データの高度化が必要と想定される代表的な材料、核種を選定し、基盤データを取得することを目的とする。さらに、微分測定、積分測定、評価の3項目を並行して実施することにより、産業界からの要求に迅速且つ柔軟に対応し、必要な核データを高度化するスキームを構築することを目的として、以下の研究開発を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 微分測定 2) 積分測定 3) 核データ整備及び炉設計への影響評価
2. 総合評価	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・核データの分野は重要ではあるものの、データの蓄積は地道な作業となっており、携わる研究者も減少している状況を鑑みると、研究基盤がある機関同士が連携し、本分野を残していこうと取り組んだことは評価ができる。 ・黒鉛の熱中性子散乱則は、高温ガス炉への活用が見えたが、高速中性子領域の断面積データが優れたデータ取得までには至らなかった。 ・中性子検出器については、まだ実用化が見えないため、相当な工夫が必要であると考える。 <p>S) 極めて優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 一部を除き、相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p>